



大楠

学校だより
日南市立東郷小学校
平成24年2月17日

東郷小学校の教育目標

思いやりの心を持ち、たくましく生きる児童の育成
やさしい子・考える子・たくましい子

[校門付近に梅が開花]

自分の思いを 学んだ言葉できちんと表す！

尊敬する小村寿太郎侯

六年 重倉さん

今年是小村寿太郎が亡くな
って百一年目です。

ぼくは、小村寿太郎を尊敬
しています。その理由は、出
生地が日南市だからというこ
ともありますが、明治時代に
起きた日露戦争が終わって、
日本の全権としてポーツマス
条約を結び、その後、江戸時
代末期に結んだ不平等条約の
一つである関税自主権を見事
に回復させたからです。

ぼくは、「めざせ小村寿太
郎国際塾」に通って、いろん
な国の文化や英語などを勉強
しています。去年の十二月に、
東京にある外務省、日本赤十
字社、ユニセフハウスなどに
研修に行きました。楽しみな
がら勉強しました。

ぼくは将来、科学者になり
たいと思っています。そして、
世のため、人のために役立つ
ような
人にな
りたい
です。



子どもの「言語と対話の力」が落ちている～「ヤバい!」「ウザっ!」「メッチャ○○」「チョウ○○」

ある新聞の記事から

[Aさん] 「このケーキ、ヤバい!」…。若者にはケーキのおいしさを称える表現だと思いますが、中高年層には、食べると危険だ という意味に受け取られそうです。

[Bさん] 最近、人込みの中で、「メッチャ事故っばくなつてチョウヤバかった」という会話を耳にして、我々の日本語はこんなにも変わったのかと、寂しさを覚えました。

ある研究者が上の記事内容に関連して、次のように指摘しています。

きちんと話そうとしない人は、使いこなせる言葉の数が減り、やがて意思疎通（お互いの考えがよく理解されること）に苦勞します。

私達自身、「携帯メールの普及」、「家族での会話の減少」「読書量の減少」「仕事の忙しさ」などが原因で、きちんと話す、きちんと書く、しっかりと読む時間が減ってしまっているのではないのでしょうか。

「言語と対話の力」育成の第一歩 本小中学校には、「学習の心得」

があり、その中に、次の項目があります。

【東郷小中「学習の心得」の中の一部】

- 指名されたら「はいっ」と返事して立つ。
- みんなにわかる声で発表し、語尾まではっきり言う。



[1/25 6年 長谷川さんのやる気満々の発表]

「言語と対話の力」を育成することにつながる大切な第一歩です。

いい緊張感をもち、「はいっ」と挙手して、自分の考えを、自分の言葉で発表しようとする。そういう子どもは、言葉数も増え、対話する力が伸びます。そして、この力は、子どもの将来の進学・就職、あるいは子ども自身が家族をもつ時などに、やる気と自信と勇気になるはずで

「言語と対話の力」を伸ばすために ご家庭にお願いすること

- ☆ 親子できちんと会話する時間を作ってください。～ 内容は何でも結構です。
- ☆ 読書を一緒にしたり、読み声を聞いてあげたりしてください。～ 特に、「家読の日」に!

